2026 年度（対象年度：2025） 自己点検・評価シート

基準3	教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。
認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

＜前年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
302	人間・科学・宗教総合研究センターが所管する学際的研究プロジェクトにおける中間評価の実施

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項
なし

参考

＜2020 年度 認証評価結果における指摘事項＞

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

Ⅰ．自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 ＜ 評定 ＞

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	評価項目〈大学基準協会の「評価項目」に相当〉 点検項目（評価の視点）〈大学基準協会の「評価の視点」に相当〉	自己評価（現状）
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織(附置研究所、センター等)を構成しているか。	A
302	教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいるか。 ①研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 ②点検・評価の結果を活用して、研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

301①　学則第 1 条の目的を達成するため、学則第 70 条の規定に基づき、大学の付属施設として、4 つの附置研究所および人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）ならびに世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している［301 ア］。

附置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している［301 イ］。

人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している［301 ウ］。

世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで、国際交流の推進、教育への還元と社会への貢献を目的として設置している［301 エ］。

また、毎年度、学部長会及び全学研究政策会議において、「教育研究組織の編制原理」に基づき、「龍谷大学研究活動に関する指針」「研究支援の方針」「附置研究所の編制原理」「人間総研センターにかかる編制原理」を確認している［301 オ、301 カ］。

以上のことから大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると評価する。

302①　附置研究所および人間総研センター・世仏研センターは、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。

また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。これらの研究組織の点検・評価は、次のとおり行っている。

〔附置研究所〕毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している［302 ア］。

〔人間総研センター〕人間総研センターが所管する戦略的な研究プロジェクト（龍谷フラッグシップ研究プロジェクト及び学際的研究プロジェクト）は、「人間・科学・宗教総合研究センターの戦略的な研究プロジェクトに係る運営内規」に基づき、毎年度、プロジェクトの進捗状況を確認している。2025 年度は、2024 年度開始の学際的研究プロジェクトの第 1 フェーズの最終年度（龍谷フラッグシップ研究プロジェクトは 4 年目）に該当し、第 2 フェーズでの研究活動継続の可否を判断する中間評価を実施した。中間評価の結果、すべてのプロジェクトが第 2 フェーズに移行することとなった［302 イ、302 ウ、302 エ、302 オ］。

〔世仏研センター〕各研究プロジェクトからの研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価を行った［302 カ］。

302②　人間総研センターでは、2025 年度に、2026 年度から研究を開始する「学際的研究プロジェクト」を公募し 2 件を採択した［302 キ、302 ク］。

また、本学研究組織にかかる研究広報ウェブサイト「Academic Doors」にて本学研究者の特色ある研究内容を分かりやすく紹介することで、本学研究に対して関心の高い層から理解や共感を得ることができている［302 ケ］。一方で、より多くの層に対し、本学研究の認知度向上と外部資金への積極的な申請促進を目的として科研費等を原資とした研究内容紹介のポスターを学内に掲示した［302 コ］。

以上のことから教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいると評価する。

長所・特色**《箇条書き》**＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価･現状「S」のもの	
302	「龍谷フラッグシップ研究プロジェクト」及び「学際的研究プロジェクト」の推進
302	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実

課題事項**《箇条書き》**　＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3　伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み　＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検･評価シート作成時点での計画の有無を問わない

・人間・科学・宗教総合研究センターが所管する学際的研究プロジェクトにおける中間評価の実施
「学際的研究プロジェクト事業評価（中間評価）要領」に基づき、学際的研究プロジェクト（2024 年度採択、3 件）に対して中間評価（書面及びヒアリング）を実施した。3 つの研究プロジェクトとも高い評価を受けて、第 2 フェーズ（3 年目～5 年目）へ移行することとなった。
・研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実
研究分野の多様性を考慮し、年間 10 人の教員を取材し、同サイトにおいて研究内容を紹介し、28,908 回（前年度 17,433 回）のアクセスを得た。
・科研費等への取り組みを主とした研究内容紹介のポスター掲示の充実
本学研究者が研究代表者を務める研究課題の中から種目や分野も考慮しつつ、8 件をピックアップし、3 キャンパスのロビー等に設置した。

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
302	人間・科学・宗教総合研究センターが所管する龍谷フラッグシップ研究プロジェクト及び学際的研究プロジェクトにおける研究進捗状況評価の実施（毎年度実施）

4 **根拠資料**

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	ア	研究関連組織図
301	イ	各附置研究所の規程
301	ウ	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	エ	世界仏教文化研究センター規程
301	オ	「教育研究組織の編制原理」「龍谷大学研究活動に関する指針」「研究支援の方針」「附置研究所の編制原理」「人間総研センターにかかる編成原理」
301	カ	2025（令和 7）年度第 2 回全学研究政策会議議事録
302	ア	各附置研究所の研究プロジェクトの評価要項
302	イ	人間・科学・宗教総合研究センターの戦略的な研究プロジェクトに係る運営内規
302	ウ	龍谷フラッグシップ研究プロジェクト・学際的研究プロジェクト研究進捗点検･評価要領
302	エ	学際的研究プロジェクト事業評価（中間評価）要領
302	オ	人間・科学・宗教総合研究センター学際的研究プロジェクト（2024 年度採択）の中間評価について（報告）【2025 年度第 30 回部局長会資料】
302	カ	世仏研センターの研究プロジェクトの評価要項（基礎・応用・国際研究部門）
302	キ	2026（令和 8）年度学際的研究プロジェクトの選定（審査）について（報告）
302	ク	2026（令和 8）年度学際的研究プロジェクト募集要項
302	ケ	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」 https://academic-doors-ryukoku.jp/
302	コ	科研費採択事業紹介ポスター

Ⅱ．評価結果

総評

301①　大学の付属施設として、4 つの附置研究所、人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）、世界仏教文化研究センターを設置し、適切な研究活動を展開している。毎年度、学部長会及び全学研究政策会議において「教育研究組織の編制原理」等に基づく各種指針の確認を行っており、組織の設置状況は大学の理念・目的に照らして適切である。

302①　各研究組織・プロジェクトにおける点検・評価体制が機能しており、2025 年度は人間総研センターが所

管する 2024 年度採択の学際的研究プロジェクト（3 件）に対して「中間評価（書面及びヒアリング）」を厳正に実施した。その結果、全プロジェクトが高い評価を得て第 2 フェーズへの移行が決定するなど、質の高い研究継続に向けた実効性のある検証が行われている。

302②　2026 年度から開始する新たな学際的研究プロジェクトの公募および 2 件の採択を計画的に進めるなど、研究組織の継続的な改善・向上に取り組んでいる。研究広報ウェブサイト「Academic Doors」の運営では、多様な研究分野の教員を紹介することでアクセス数を 28,908 回（前年度 17,433 回）へと大きく伸ばしており、本学研究の認知度向上において確かな成果を上げている。また、学内への科研費等採択事業紹介ポスターの掲示も継続して実施されている。

以上、大学の理念・目的に照らして各組織の設置状況は適切であり、かつ教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいると評価できる。

長所・特色

302①　人間総研センターが所管する「龍谷フラッグシップ研究プロジェクト」及び「学際的研究プロジェクト」において、毎年度の進捗確認に加え、第 2 フェーズへの移行可否を判断する厳格な「中間評価」を適切に実施している。2025 年度は対象の 3 プロジェクトすべてにおいて高い評価を確認し次フェーズへ移行させるなど、大学が戦略的に推進する研究プロジェクトの質保証と持続的発展に向けた優れた評価システムが構築されている。

302②　研究広報ウェブサイト「Academic Doors」において、研究分野の多様性に配慮しながら年間 10 人の教員および研究内容を丁寧に発信し続けている。この継続的な取り組みにより、サイトへのアクセス数が前年度の 17,433 回から 28,908 回へと大幅に伸長しており、本学の研究力発信および社会的認知度の向上において顕著な成果を収めている。

課題事項　＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

2026 年度（対象年度：2025） 自己点検・評価シート

基準3	教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。
認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

＜前年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301① 302①	「3 つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項
なし

参考

＜2020 年度 認証評価結果における指摘事項＞

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

Ⅰ. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 ＜ 評定 ＞

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の 4 段階で記入してください。

項目 No.	評価項目〈大学基準協会の「評価項目」に相当〉 点検項目（評価の視点）〈大学基準協会の「評価の視点」に相当〉	自己評価（現状）
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織（学部・研究科等）を構成しているか。	A
302	教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいるか。 ①教育組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 ②点検・評価の結果を活用して、教育組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

301①　学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」の具現化と「龍谷大学の教育理念・目的」［301 ア］との適合という観点に基づき、設置の必要性について審議が重ねられ、大学評議会での協議を経て、理事会で承認する体制をとっている。また、「建学の精神」と「龍谷大学の教育理念・目的」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、それらは「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定められている［301 イ］。

教育組織の編制は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と３つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」［301 ウ］、「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」［301 エ］、「教育研究等に係る施設設備に関する整備方針」［301 オ］に基づき行われている。

2025 年度については、教育研究組織の適切性にかかる検討を踏まえ、以下のとおり学部・学科等の教学再編等が決定された。

- 文学部において、真宗学科・仏教学科を統合し、新たに「仏教学科」１学科体制に再編し、教学内容の充実をはかり、入学定員の適正化をはかるほか、歴史学科東洋史学専攻には「ユーラシア地域の考古学・美術史分野」を新設し、 文化遺産学専攻には「無形文化遺産学」分野を新設し、教学内容の充実をはかることを決定した［301 カ］。
- 経済学部において、国際経済学科・現代経済学科を統合し、1 学科体制に再編し、「経済学科」名称を変更し、「学生の主体的学び」を促すユニット制を導入し、教学内容の充実をはかることを決定した［301 キ］。
- 先端理工学部では、理工系 3 学部の再編並びに分野横断型教育を含むカリキュラムの再構築を訴求していくという観点から、2027 年度から「理工学部」として名称変更することを決定した。［301 ク］

302①②　教育組織に関わる事項に係る点検・評価については、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」に係る検証を中心に、「３つの方針検証委員会」（学部）および「大学院教学会議」において継続的な確認と見直しを行った［302 ア］［302 イ］。これら点検・見直しの結果については、各教学主体における教育活動の改善・向上に繋げている。

2025 年度は、教育組織に関わる事項の全学的な改善・向上にかかる取り組みとして、学問の動向や社会的要請など外部環境等を配慮した教学組織再編を検討し、2027 年 4 月から文学部・経済学部において教学組織の再編を行うほか［301 カ・キ］、先端理工学部については「理工学部」に学部名称を変更することを決定した［301 ク］。

以上のことから、教育研究組織の設置状況およびその組織にかかる点検・評価に関して、適切に行われていると評価する。

長所・特色**《箇条書き》**＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価･現状「S」のもの	
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と３つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」等の策定による教育組織の編制原理の明確化

課題事項**《箇条書き》**　＊伸長すべき点、改善すべき点	

3　**伸長・改善に向けた取り組み**

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に

向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み　＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検･評価シート作成時点での計画の有無を問わない
301①　「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」に係る見直しに関して、「３つの方針検証委員会」（学部）および「大学院教学会議」（大学院）において継続的な確認と見直しを行っている。 302①　学問の動向や社会的要請など外部環境等を配慮した教学組織再編を検討し、2027 年 4 月から文学部・経済学部において教学組織の再編を行うほか［301 カ・キ］、先端理工学部については「理工学部」に学部名称を変更することを決定した［301 ク］。

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301① 302①	「3 つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

4　根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	ア	龍谷大学の教育理念・目的　https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
301	イ	龍谷大学学則/龍谷大学大学院学則／龍谷大学短期大学部学則
301	ウ	「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」　https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
301	エ	「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」 https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/policy/index.html
301	オ	教育研究等に係る施設設備に関する整備方針
301	カ	文学部の改組について（提案）（2025 年度第 5 回評議会資料）
301	キ	龍谷大学経済学部の改組について（提案）（2025 年度第 6 回評議会資料）
301	ク	先端理工学部の学部名称変更に関する上申について（2025 年度第 19 回部局長会資料）
302	ア	2025 年度　第 4 回　3 つの方針検証委員会資料　（抜粋）
302	イ	2025 年度　第 9 回　大学院教学会議資料　（抜粋）

Ⅱ．評価結果

総評
建学の精神及び教育理念・目的に基づき、教育組織を体系的に編制するとともに、全学的な点検・評価を通じて継続的な改善を進めている。2025 年度には、学問分野の発展や社会的要請を踏まえ、文学部・経済学部の再編や先端理工学部の名称変更を決定するなど、教育内容の充実と組織の適正化に向けた取組を着実に推進している点は評価できる。
長所・特色
課題事項　＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載